

KiKiの広場



2019年 3月 1日
cafe NO.101
KiKi



2月に入ってから毎日のように、メジロが庭につがいで、何組かやってきます。みかんを枝にさしていると、身体を折り曲げるようにしてつく姿が可愛くて、とても癒されてきました。ところがある日、2組のメジロがパートナーではない相手とそれぞれケンカを始めました。空中でぶつかり地面に落ちても取っ組み合いをしていました。いつもはみんなでかわりばんこにみかんをつつくのに、よほど気の合わない相手同士だったのでしょうか。縄張り争いは生き物の常ですが、可愛らしい姿に似合わない激しいケンカに、メジロたちも人間世界もケンカのない世の中にならないものかと改めて思いました。と言いながら、メジロの為にいたミカンを、ヒヨが食べにくるとつい、「だめ！あっちに行きなさい！」と追っ払ってしまう私。同じ鳥なのに、ごめんね、ヒヨ。

3月の予定

休館日	1 2 (火)
定休日	毎土・日曜日
臨時休業日	4日(月)・11日(月) 25日(月)



「今月のケーキ」・・・「桜モンブラン」 350円

宇治抹茶スポンジの上に、桜の葉入りホイップクリームを乗せ、ホワイトチョコレートと白あんを合わせた桜色クリームで包んでいます。トップには塩漬け桜花が飾られ、この季節ならではの可愛らしいケーキです。

今日のお気に入り・・・「もうすぐ春！！の絵本」

～「はるのおとがきこえるよ」「あ、はるだね」「まいごになった子ひつじ」「なのはなみつけた」「うさぎのくにへ」などなど～



冬の終わりの夜に聞こえてきた不思議な音、「コツン コトン コツコツ ガリガリ バリバリ パリン ～」、いったい何の音でしょうか。「はるのおとがきこえるよ」は、くまの「もうすぐ くるよお いっしょにいこう」という誘いによって、みんなでその音の正体を探しに行きます。ワクワクドキドキしながら、最後に弾けるような春に出会える絵本です。「あ、はるだね」は、時間をかけて春の訪れを待つ男の子のお話です。どうにかして茶色の世界を緑の世界に変えようとしてします。「緑にする作戦」には、他に犬やカメやうさぎ、小鳥たちも参加して、いろいろなことに挑戦するのですが、その様子に思わずずっと笑ってしまいます。男の子が地面に耳をあてるシーンでは、春の訪れを待ち焦がれる想いが伝わってきます。



今日の本棚・・・「岩波の子どもの本シリーズ」

～「ちびくろ・さんぼ」「まいごになったおにんぎょう」「金のニワトリ」「ものぐさトミー」「ふしぎなたいこ」などなど～



1953年に石井桃子さんたちによって創刊された「岩波の子どもの本」、誰もが一度は手に取ったことがあるのではないのでしょうか。小さい子どもたちの手に合う可愛らしい本の1号は「ちびくろ・さんぼ」、トラがバターになったり、そのバターでホットケーキを焼いたり、お話の面白さと鮮やかな挿絵が大好きでした。大人になってお気に入りの1つになった「まいごになったおにんぎょう」は、優しい女の子とスーパーの冷凍庫に落ちて忘れられた人形のお話です。女の子がみつけて寒そうにしている人形に心を寄せて、来る度に手作りのプレゼントを渡します。寂しかった人形が心も身体も温かくなっていく様子に胸がキュンとなります。アーディゾーニの絵が素敵です。文はアーディゾーニの長男夫人のエインゲルダ、訳は石井桃子さんです。



ほっとフレイク

胡蝶蘭その10・・・4度咲き成功！！2016年の秋にいただいた初代胡蝶蘭が4回目の花を咲かせました。肥料も与えず鉢替えも全くなしなまま、水だけでよくぞまあ咲いてくれたと感慨ひとしおです。2代目も2度目の花をつけています。3代目は2枝のうち1枝はすぐに花が枯れてしまいましたが、もう1枝の花はまだ元気です。そして、すでに枯れてしまった方も新しい枝が伸び始めています。日に日に枝が伸び、蕾が膨らんでいく様子を目の当たりにすると、生き物の生命力の強さを感じずにはられません。子どもと一緒にあまり手をかけすぎない方が、力強く育つのではないのでしょうか。

